

会員数	94,135	(前月比) +	5
手配り	28,654	(前月比) -	300
郵送	9,220	(前月比) +	157
会員世帯数	41,100	(7/31現在) [前月比 24増]	
協同基金到達額	2,439,835,000円	(7/31現在) [前月比 232,000減]	
協同基金出資者数	22,746名	(7/31現在)	



発行
健康友の会 みみはら
本部事務局組織部
機関紙編集委員会
〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860
1部30円

今年も「夏休み子ども塾」を7月29日～31日の3日間開催しました。毎回、とっても元気な子ども達と接し、疲れるけれど、元気とやり甲斐をも



らえる至宝の活動であると改めて感じました。今回、QRコードで受け付けを開始したら1時半後には定員を越え、参加する子どもの小学校が7校に渡ったのもびっくりでした。

結局3日間でのべ74名が参加してくれて会場の地



北区メリア
キッズクラブ

ヒンメリとランチ、好評！

今年の夏休み企画は、7月22日(月)に「ヒンメリ(麦わらで作るフィンランドの伝統工芸)作りとみんなでランチ」を開催しました。



酷暑の中10人の子ども達が集まってくれました。ヒンメリの準備段階では生石高原のススキを使って挑戦もしましたが、当日は丈夫なペーパーストロークラフトを使用。

夏休み子ども企画



域会館は満杯でした。9時からラジオ体操、自己紹介などして勉強開始。夏休みの宿題やドリル、絵日記や読書感想文・習字などに取り組んで

「夏休み子ども塾」やりました！

西区鳳支部
夏休み
子ども塾

いきました。また他の学校の子ども達とも楽しそうに交流していました。本当によく頑張っていました。11時からの1時間は、1日目は人形作りの工作、2日目は集団ゲーム、3日目はペルシャ音楽コンサートを楽しみました。各日の質問タイムでは、次々と手が上がりしかも適格な質問内容でプロの方もびっくりしていました。お昼も毎回「美味しい！」と次々とおかわりしていました。最終日は「来年も来ま

す！」とボランティアのお兄ちゃんお姉ちゃんとエールを交わし元気に帰っていきました。今回、学習支援ボランティアは大学生・高校生・教師OBなど3日間で54名、調理では3日間で14名のボランティアにお世話になりました。(鳳支部 小倉孝雄)



そしてお昼ごはんのカレーでは、地域の方からたくさん頂いたミニトマト、ナス、インゲン、ミニジャガイモをトッピングしました。1人の男の子から「ナス残したらおかわりできないの？」との質問もありましたが、ナス抜きで3杯のおかわり。

食後の自由遊びでは、男子4人はテーブルに障害物を置いての工夫をこらした卓球ダブルスをしていたり、1人参加の男子と女の子もお互い内容豊かなサーブの応酬でかなり打ち解けて楽しんでいました。(堀江陽子)



でいました。アメリカから夏休みで日本に来ていた子に英語で関わってくれるスタッフもいて会話も進み助かりました。帰りにおみやげを渡した後、「楽しかった」の言葉をもらい、メリアキッズスタッフ全員でまた一つ成し遂げられたという充実感を得ることが出来ました。この充実感には喜びや励みになります。また、今回も地域の方々から野菜の寄付を頂くなど嬉しい支えもありました。今後子どもたちが集まってくれる賑やかな居場所になることを目指してまいります。(堀江陽子)

聴診器

1964年にアンプル事件があった。解熱鎮痛薬に矯味剤等を加え、水溶液にしてアンプルに充填した一般用のかぜ薬。ピリン系ということでシヨックによる死者が出て大きな社会問題となった。この問題が契機となって安全性重視の政策がとられた。人工甘味料シクラミン酸Naの使用禁止、着色剤や防腐剤の一部も禁止された。これらは医薬品ではあるが、安全性ということでは健康食品も同じ▼今年2月、小林製薬の「機能性表示食品」紅麴サプリの摂取により、亡くなった人や多くの入院患者を数えた。小林製薬の責任は勿論だが、国の責任も重大です▼これまでの「トクホ」とも呼ばれる「特定保健用食品」は、臨床試験が必須で国の審査を経て製造許可となるため、多額の費用が必要となる▼これに対して、安倍政権が打ち出した規制緩和の一つ「機能性表示食品」は、根拠を示して届け出れば「機能性」が表示でき、無審査のため多くの企業が参入した。しかしこれは安全性軽視となり今回のような被害につながった▼政府の消費者委員会委員もつとめた佐野真理子氏の発言「多くの欠陥と問題を抱えた「機能性表示食品」は廃止して、安全性を確保できる制度を新たに作り直すべき」に賛同。(八田兄一)